

資料 1

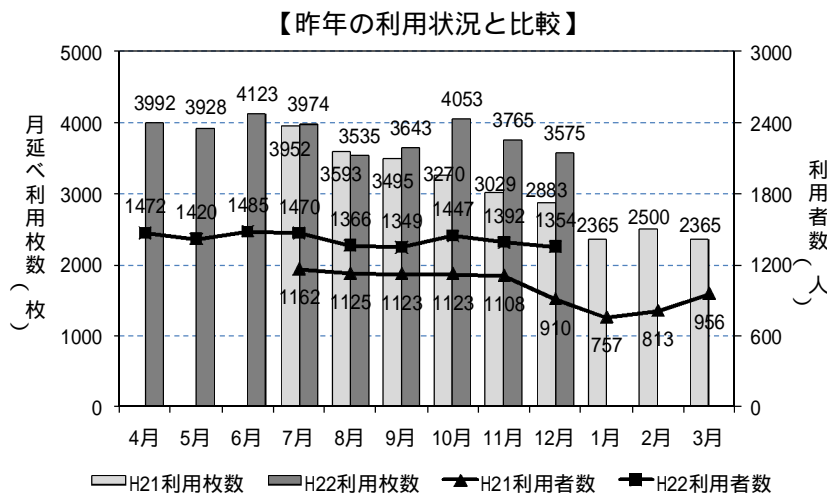
平成22年度社会実験中間報告について

1. 高齢者の割引サービス

1) 利用状況表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
利用補助券数	3,992	3,928	4,123	3,974	3,535	3,643	4,053	3,765	3,575	34,588
利用者数	1,472	1,420	1,484	1,470	1,366	1,349	1,447	1,392	1,354	2,493
平均使用枚数	2.7	2.8	2.8	2.7	2.6	2.7	2.8	2.7	2.6	

4月1日～12月31日現在



	平成 22 年度	参考：平成 21 年度実績
期間	平成 22 年 4 月～平成 22 年 12 月	平成 21 年 7 月～平成 22 年 3 月
対象者 (75 歳以上)	14,078 人 (H22.12 月現在)	14,755 人
申請者	3,295 人	
利用者数	2,493 人 (18%)	2,210 人 (15%)
(うち新規利用者数)	1,002 人	265 人
(うち利用回数が増加)	925 人	389 人

昨年からの利用者数の変化

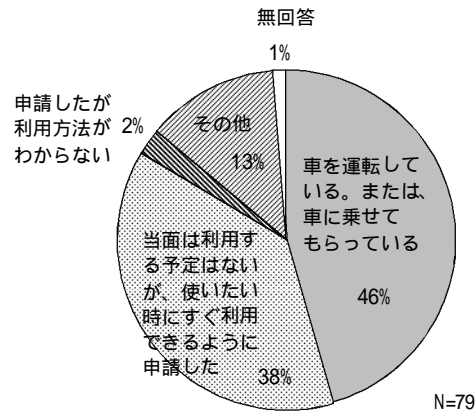
	平成 21 年度 (H21.7.1～ H22.3.31)	平成 22 年度 (H22.4.1～ H22.12.31)	継続して利用している人の内訳	
継続して 利用している人	1,491 人	1,491 人	回数が増加した人	925 人
			回数が減った人	486 人
			回数が変わらない人	80 人
乗らなくなった人 乗れなくなった人	719 人 ²		X	
新規利用者	1,002 人			
計	2,210 人	2,493 人 ¹ (+283 人)		

1 運賃割引申請者数：3,295 人 (H22.12.31 現在)

2 死亡者 73 人、転出者 12 人、H22 未利用者 634 人 (未登録者 517 人)

申請者数 3,295 人に対して利用者数が 2,493 人であり、申請しているが利用しない人が 802 人いる。

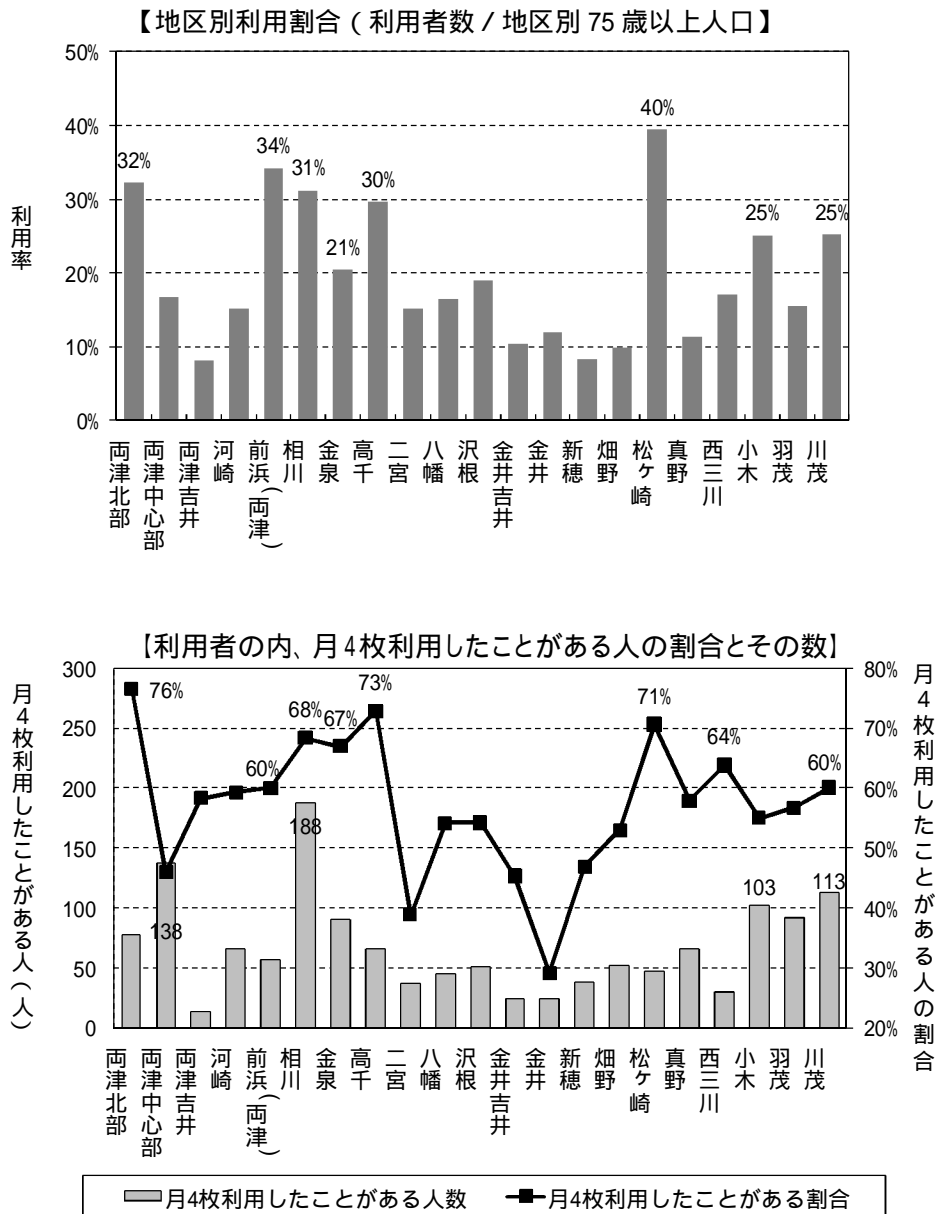
アンケート調査より、申請したが利用しない理由



新規利用者・利用回数増加者ともに、昨年を大きく上回る結果となっている。
しかし、さらに詳細な内訳「昨年からの利用者数の変化」を見ると、利用しなくなった人・利用回数が減少した人も多くいることがわかる。
利用しなくなった人は 719 名おり、うち死亡、転出などにより利用できなくなった人が 85 名である。残り 634 名について、昨年度の割引サービスでの月平均利用枚数は 0.5 枚と少なく、また、うち 117 名がサービス申請は行っているが利用をしていないことから、元々利用頻度が少なく機会があれば利用する方が、たまたま今回は利用していないだけではないかと推測する。

今後、減少理由をさらに調査し、改善に努めることが課題。

2) 地区別利用状況表



地区別の利用割合（利用者数 / 75 歳以上人口）は、郊外部の「両津北部」、「前浜」、「松ヶ崎」、「相川」、「高千」で 30% を超えており、国仲平野の「両津吉井」「金井吉井」「新穂」「畑野」で 10% からそれ以下となっている。

月最多枚数（4 枚）を利用したことがある人は相川地区で 188 人であり、利用者の内 4 枚利用したことがある割合は、「両津北部」、「高千」、「松ヶ崎」で 70% を越えている。

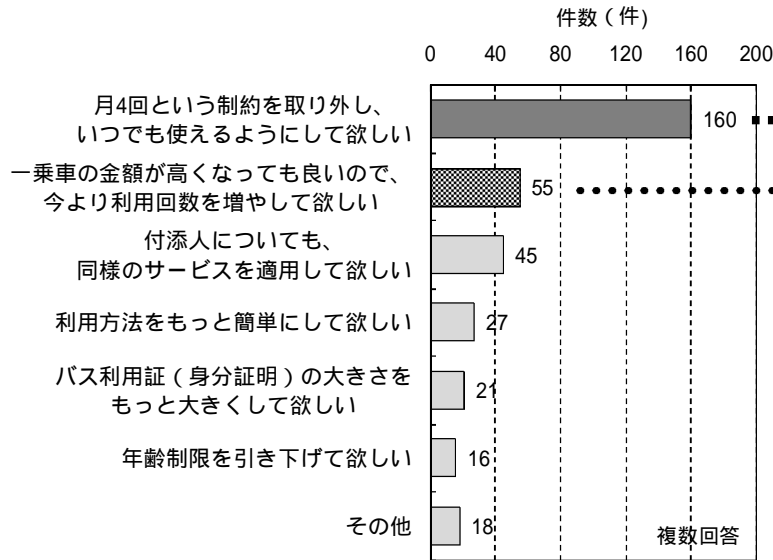
旧市町村別で見ると、相川地区が全体的に高いことがうかがえる。

利用の高い地域の中で、直通便、乗換サービス対象便がないのは相川地区のみである。

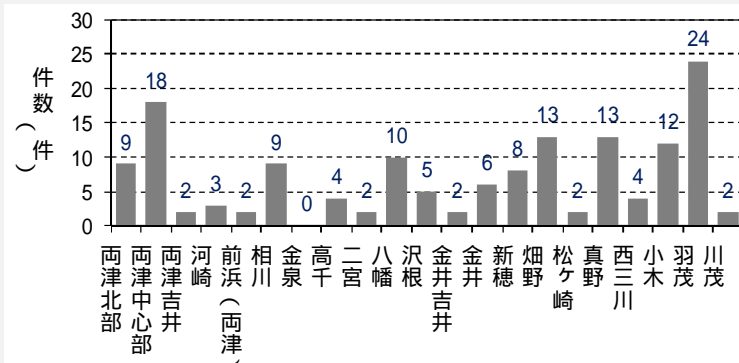
相川地区のアクセス改善策を検討すべきではないか。

3) 改善要望

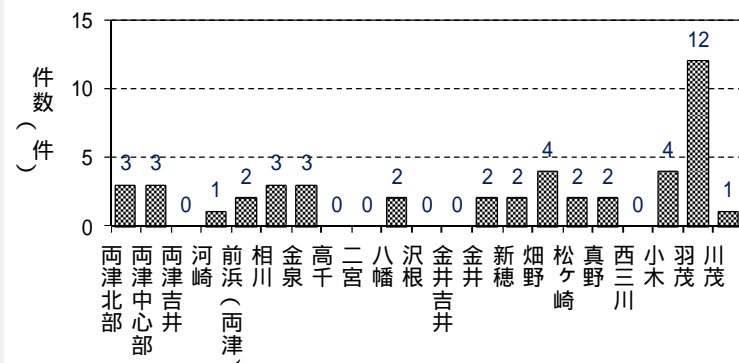
アンケート調査より



【「月4回の制約を外してほしい」の回答者の住所地区】



【「金額よりも回数の増加」の回答者の住所地区】



2. 病院乗入れサービス

1) 内海府線 (H22.4.1 ~ 12.31)

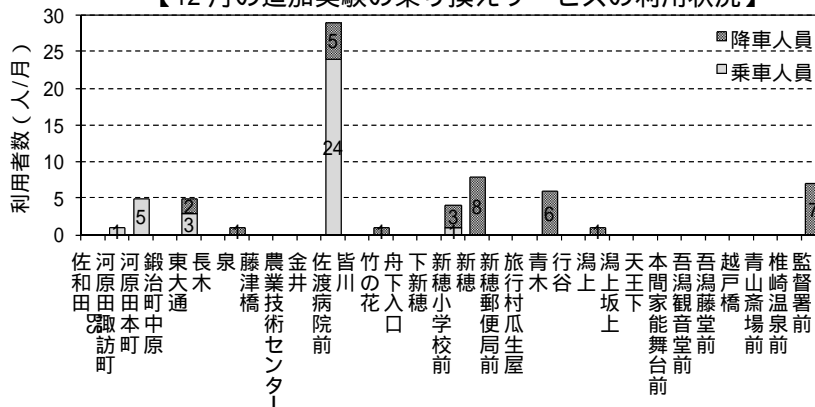
佐和田行き		真更川行き	
利用者数	4,377 人	利用者数	5,103 人
1 便あたり利用数	11.8 人 (370 便)	1 便あたり利用数	13.7 人 (370 便)
(うち両津病院降車数)	426 人 (10%)	(うち両津病院乗車数)	389 人 (8%)
(うち佐渡病院降車数)	569 人 (13%)	(うち佐渡病院乗車数)	206 人 (4%)

補足：期間限定での佐渡病院 11 台発の増便の実績

内容：ジャンボタクシーを活用し、期間限定で佐渡病院 11 時台発の便を運行する。

期間：H22.12.1 ~ H23.1.31 (平日のみ)

【12月の追加実験の乗り換えサービスの利用状況】



「佐渡病院」は「佐和田行き（通院時）」の利用が 569 人であるが、「真更川行き（帰宅時）」の利用が 206 人と半数以下である。これはヒアリング結果からも帰宅の時間帯が必要とあっていないためである。

帰り便の需要があっていないと想定されるため、12 月より 11 時台の帰宅便を追加したが、利用はさほど多くはなかった。帰宅時間は人によりバラつきがあるため、更に帰宅時間の選択肢の幅を広げるような対応が必要と考える。 **今後の検討課題**

対象となる便の利用者は、病院利用者が「佐和田行」で 21%、「真更川行」で 11% となっており、各々の約 6 割 (H20 動態調査より参考値) は定期券利用者が想定される。

2) 東海岸線 (H22.4.1 ~ 12.31)

両津行き		岩首行き	
利用者数	4,457 人	利用者数	3,189 人
1 便あたり利用数	12.0 人 (370 便)	1 便あたり利用数	8.6 人 (370 便)
(うち両津病院降車数)	472 人 (11%)	(うち両津病院乗車数)	167 人 (5%)
(うち監督署での乗換数)	84 人 (1.8%)	(うち監督署での乗換数)	154 人 (4.8%)

「両津病院」は「両津行き（通院時）」の利用が 472 人であるが、「岩首行き（帰宅時）」の利用が 167 人と半数以下である。これは病院ついでに周辺商店街を利用するため、「両津病院」以外の停留所を利用していることが、他の動態調査から推測される。

ヒアリングより、内海府線と連動し病院からの帰り便についての不満が多い。また、他の路線（内海府線以外）への乗換サービスの要望もある。 今後の検討課題

ヒアリングより、両津病院へもう 1 便乗り入れしてもらいたい要望があった。

3) 乗換えサービスの利用状況 (H22.4.1 ~ 12.31)

	発行数 (A)	対象者数 ¹ (B)	利用者の割合 (A/B)
前浜線 赤泊線	114	787	14%
東海岸線 内海府線 (ジャンボタクシー 東海岸線 ²) (ジャンボタクシー 内海府線 ²)	98 (3) (3)	1,309	7%
度津線 小木線	23	235	10%
赤泊山の手線 赤泊線 (H22.4.1 ~ 9.30)	0	41	0%
外三崎線 小木線 (H22.4.1 ~ 9.30)	0	74	0%
計	235	2,433	

1 対象者数：補助券より対象便と沿線地区(住所)より試算

2 () は H22.12.1 からのタクシーによる追加実験の実績(東海岸線 内海府線の内数)

3 対象期間：H22.4.1 ~ 12.31

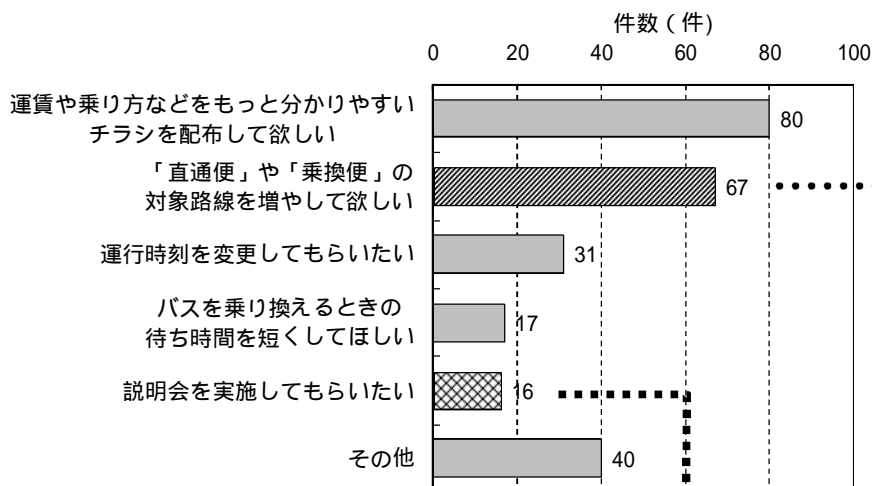
ヒアリングより、相川海府方面からの乗換を認めて欲しい等の要望有り。

高齢者割引サービスの状況も踏まえ、今後の乗換サービスを拡大すべきかが課題

4) 改善要望 (アンケート調査より)

「直通便・乗換便」の改善については、「現状ではわかりにくい」ため、分かりやすいチラシ、説明会等の実施が望まれている。

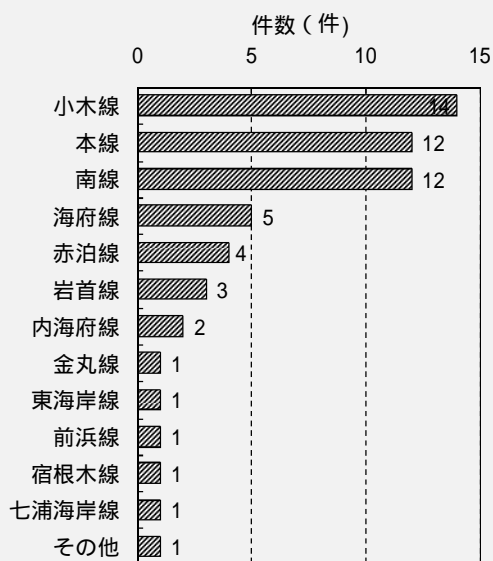
運行に関しては対象路線の増加が望まれており、路線別では特に「小木線」、「本線」、「南線」が多い。



【希望会場】

- ・羽茂会場
- ・小木公民館
- ・しゃくなげ
- ・集落公民館
- ・犬神平
- ・アミューズメント
- ・コミュニティセンター
- ・相川地区
- ・岩首多目的研修センターなど

【対象路線】



【上位路線の回答者の住所地区】

- 小木線
真野、西三川、羽茂、小木
- 本線
両津中心部、両津吉井、金井
沢根、相川、金泉、真野、羽茂
- 南線
新穂、畑野、真野、八幡、二宮
小木、相川

3. 観光二次交通の充実

1) 利用実績 [5ヶ月間(7~11月)の各停留所乗降者数]

	H22年度	(H21年度)		H22年度	(H21年度)
佐渡金山	1,384	1,736	尖閣湾揚島	378	412
佐渡版画村	79	142	両津港	1,393	1,630
相川博物館	75	138	椎崎温泉	54	73
歴史伝説館	600	955	能舞台	49	182
アルコール共和国	150		潟上温泉	140	193
吉岡臨時	66	63	トキの森公園	1,401	1,554
国分寺	60	58	宿根木	305	170
妙宣寺	123	198	太鼓体験交流館	41	
大膳神社	59	103	沢崎	81	52
尖閣湾達者	261	252	西三川 GP	46	398
			合計	6,745	8,309

月別利用状況

月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
H22年度	1,461	2,271	1,217	1,125	671	6,745
H21年度	966	2,367	2,746	1,189	1,041	8,309

全体的に昨年と比較し、利用者が減少している。

7月は昨年と比較し、増加傾向にあり8月以降は減少したが、「佐渡金山」や「トキの森公園」は月単位では増加している月もある。全体的な減少の大きな要因として、昨年度はDC、シルバーウィークにより、観光客が増加していたためと考えられる。

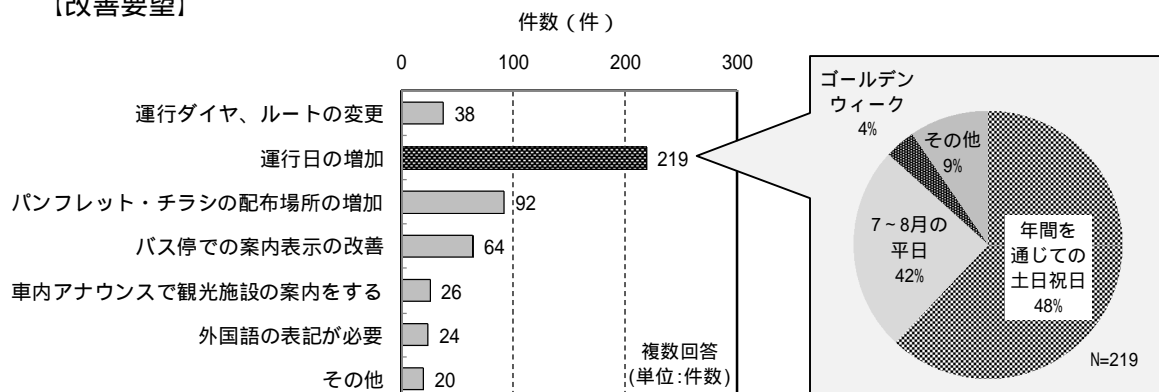
2) アンケート調査

利用者の57%が事前に情報入手しており、その媒体は主にインターネットとチラシ・パンフレットが多い。ある程度周知は行き届いているのではないか。

前年度の満足度(運行ダイヤ)と比較すると、「満足」・「やや満足」の合算で6%アップしており、一定の改善効果が現れている。

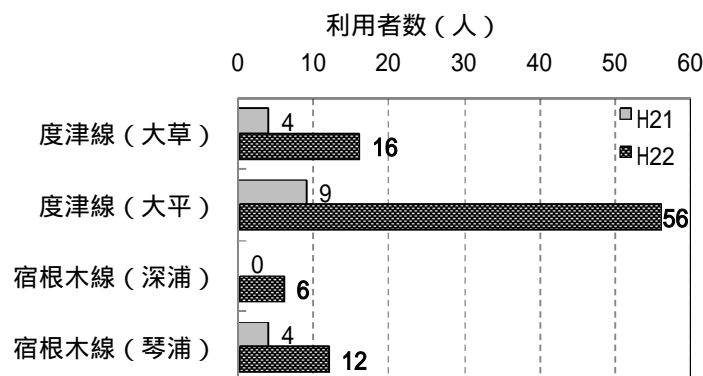
改善要望として、運行日の増加が最も多く、内訳として「年間を通じての土日祝(48%)」、「7~8月の平日(42%)」に要望が集中している。

【改善要望】



4. 南部地区運行サービスの見直し

1) 宿根木線・度津線 (H21 年度: デマンド H22 年度: 定時定路線)



昨年と比較し、利用者数が各停留所で増加している。これは、需要があるが、利用者に高齢者が多いことから、昨年度のデマンド（電話予約での運行）の手法が適していなかったことが考えられる。

2) 外三崎線 (H21 年度: 週3運行 H22 年度: 週1運行)

年度	小木 羽茂		羽茂 小木	
	H22 年度	H21 年度	H22 年度	H21 年度
利用者数	63 人	93 人	30 人	51 人
1便あたり利用者数	2.7 人	1.6 人	1.3 人	0.9 人

資料データ：H22.4月～9月

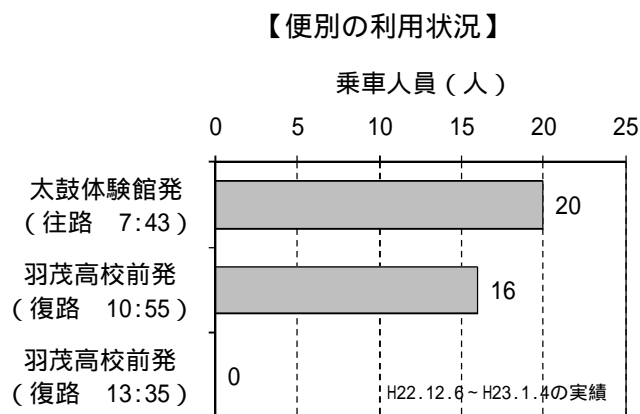
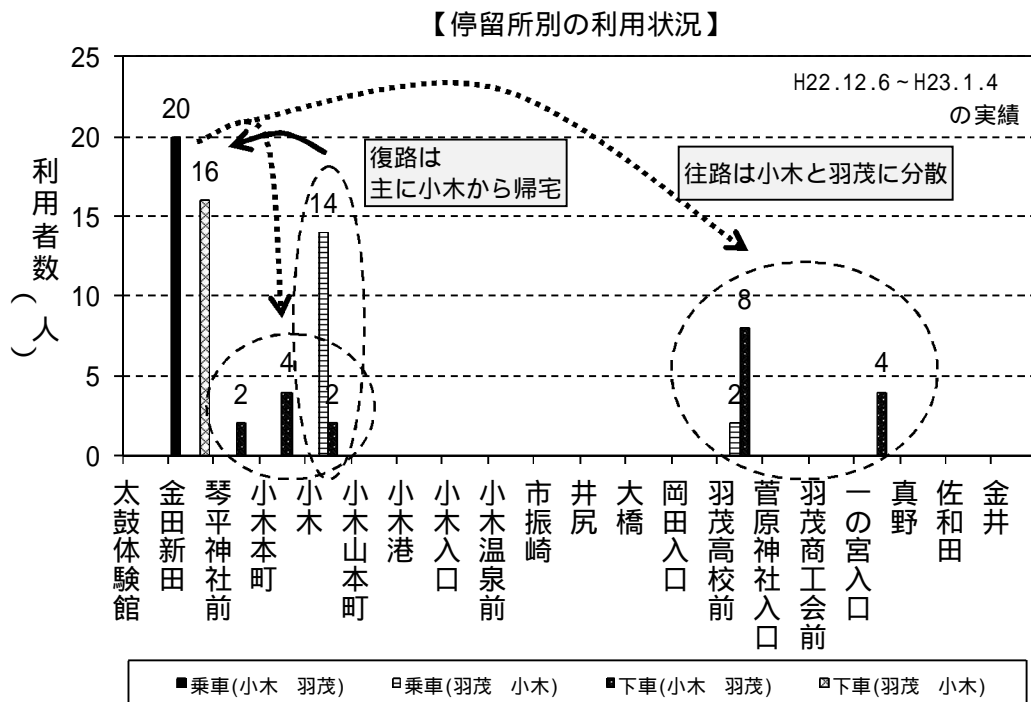
昨年と比較し、運行本数（運行日）が3日/週 1日/週に減少したため、利用者数も減少している。「金田新田」では約半分となっているが、他の停留所は大きく減少していない。平均乗車人員は運行本数の減少により増加しているが「小木 羽茂」で2.7人/便程度である。区間別では「小木港～江積」間は利用者がほとんどないが、「金田新田～羽茂高校前」の間は需要があるため、運行経路等の見直しを行う必要がある。

3) 赤泊山の手線 (H21 年度: デマンド H22 年度: 週1運行)

年度	菟場 赤泊 (行き便)		赤泊 菟場 (帰り便)	
	H22 年度	H21 年度	H22 年度	H21 年度
利用者数	0 人	1 人	0 人	1 人

昨年度に利用が少なかった赤泊の交通空白地域で、アンケートやヒアリング結果をもとに運行方法を変えながら実施したが、利用がない状況である。

4) 金田新田線 (H22.12 月から実施)



H22.12.6 から金田新田線として新たに運行を開始した路線は、月曜日のみこれまで5日運行しており、「金田新田」で20人/5日の利用者となっている。

便別では、太鼓体験館「7:43」発と羽茂高校前「10:55」発の利用であり、羽茂高校前発「13:35」は、この1ヶ月間の利用はない。

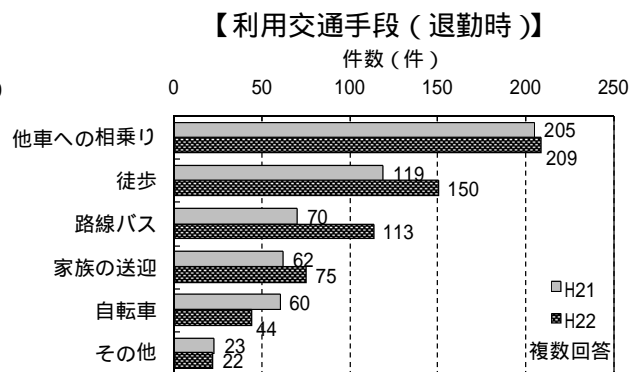
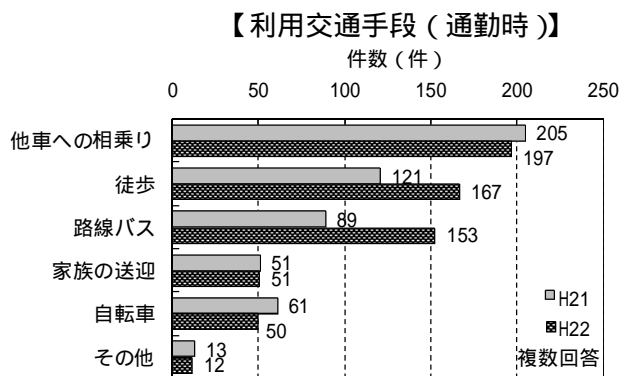
「13:35」は佐渡病院利用者の帰宅便として組んだものだが、需要があっていない可能性があるため今後検討が必要である。

5. ノーマイカーデーについて

1) 参加者数

	11月							合計	参考 H21
	24日 (水)	25日 (木)	26日 (金)	27日 (土)	28日 (日)	29日 (月)	30日 (火)		
市職員	57	43	54	8	3	31	35	231	273
市職員以外	66	82	85	27	16	62	69	407	377
合計	123	125	139	35	19	93	104	638	650

2) 参加者の交通手段(複数回答)



利用者は「他車への相乗り」が昨年と同様に最も多く、次いで「徒歩」、「路線バス」であった。順位は変わらないが、昨年と比較すると「路線バス」の利用者が増加している。これは、ノーマイカーデー特別料金の効果があったものと考えられる。

2) アンケート調査

路線バスでの参加者のうち、本線の利用が最も多く、次いで南線という結果となった。
特別運賃により、バス利用者は増加したが、退勤時のバス運行時刻に対する不満が多く課題となっている。

今後、ノーマイカーデーを実施するにあたって、利用の多い路線のダイヤ等の改善を図るべきか。

【ノーマイカーデー参加者の利用バス路線】

